

あつか ともな こさくち へんかん  
**20 農業生産条件悪化に伴う小作地返還**  
 じょうきょう  
**状況に関する件**

昭和20年(1945)

ちやうへい ちやうよう とほ  
 徴兵・徴用による労働力不足や資源の乏しさによ  
 ひりょう のうぎょうきかいとう ふそく おもいきょうしゅつ  
 る肥料・農業機械等の不足、重い供出の負担で経  
 営が成り立たなくなり、小作地返還が増加したことを伝  
 える文書。

群馬県行政文書「主要食糧需給関係綴」(A0384A0G 1801)

経済秘第 四五五號

昭和十九年十月三十日

群馬縣警察部長

内務省警保局經濟保安課長殿  
 近藤縣警署(經濟警署)部長殿  
 管下各警署署長殿

農業生産条件悪化に伴う小作地返還状況(周知件)

農業労働力不足並に肥料資材供給減等農業生産条件ノ悪化  
 化ト供出加重ハ農業経営ヲ苦境ニ陥レ農民ノ一部ニ耕作放棄  
 ヲ引起シ耕地返還ノ聲ニ出マルモノ漸増ノ傾向ニアリ本年四月一日  
 ヨリ九月末日迄ニ地主ニ対シ耕地返還ニ及ビタルモノ

- 田地 九九件 一九町一反一畝
- 田地 一八六件 五五町八反五畝

合計二八五件 七四町九反六畝

ニシテ返還理由ハ労働力不足 一五六件 供出困難 一四四件  
 小作条件ニ不満足 五件 ナルガ実態ヲ検討スルニ対象耕地ハ  
 粗田粗畑 土地所有者ハ頑迷無慈悲ナル者多ク皇勤農民  
 タルノ情念ニ欠ク小作人カ手荒ノる偏ラ爆発セルモノト認メラ  
 ル、モアリ縣ニ於テハ警署 経済力(西部)協力農民被恤  
 ノ昂揚遂勤 生産条件ノ改善、然レ割当適化、三七重  
 実ヲ置キ実態ニ即シタル善後措置ヲ講ジ小作地返還耕作廢止  
 予防ニ努メ生産階級ヲ期シツアリ

右状況左記ノ通ニ有シ此段及申(通)報り也

管下各警署署長ハ指導取締ノ参考ニ宜シセラルベシ

一、小作地返還ノ状況

農業労働力不足ハ愈々深刻ニシテ甚度緊急ニ以テ農林中堅者  
 壯年ハ應召並用 其他年需工務等ニ転出離村シ就労人急  
 減少スルト共ニ残存労働力ハ老幼婦女子ニシテ質的能力低下  
 シ農業利賃材ハ肥料ヲ初メ農具 地下足袋 作業衣等  
 總テ減配セラレ鋼材不足ニ依リ畜力利用ノ減退 修理用資  
 材ノ入牛難ニ基因シ機械力活用困難等益々労働力不足ニ拍  
 車ヲカケク生産条件ハ日ヲ追テ累積悪化シ農業経営ヲ  
 苦境ニ陥レ加フルニ積年ノ供出加重ハ過少農家タル小作  
 階層ノ食生活ニ不安動搖ヲ興ヘ食生活ニ多分ニ脆弱性  
 ヲ有セルモノハ労働力ノ報酬少キ農業経営ヲ中止シ  
 経済的ニ恵マレタル地ノ労務ニ転換シ純消費者トシテ  
 配給ヲ受ケ安逸コナル食生活ヲ営マントスル氣運醸成セ  
 ラレ戦時経済政策ニ対スル無言ノ反抗ト平素頑迷無慈悲

悲ナリシ地主ハ及感ノ爆奔トナリ毎年未償ヨリ土地返還  
 之氣運醸成サレツ、アリシガ在春マモテハ契約期間満ア  
 依ル返還ヲ除キテハ具體的返還事實ナク推移視察中ノ  
 処在毎夏作預ヨリ地主ニ対スル耕地返還ノ申込激増シ重毛  
 地方等需工防地帯ヲ初メ從來農民還勤等更ニナカ  
 リシ西群馬地方(群馬碓永北甘米、芳野各郡)ノ純朴ナル  
 農村ニ逆波及シ九月三十日現在ニ於テ勞力不足、世出  
 困難ノ十作条件不滿等ヲ理由ニ耕地返還シタルモノハ  
 田地 九九件 一九町一及一畝  
 畑地 一八六件 五五町八及五畝  
 合計 二八五件 七四町九及六畝  
 大ナル件數ニゴリ之ガ返還ノ表面理由ヲ調査スルニ  
 (一) 勞力不足ヲ理由トスルモノ (賃材不足アルモ勞力不足ニ吸集  
 セラル、モ、アリ)

二 耕作者老衰ニ依リ耕作不能  
 五件 一町七畝  
 三 耕作者長期ニ亙リ疾病ニ依リ耕作不能  
 五件 一町七畝  
 四 耕作者又ハ家族應召ニ依リ耕作不能  
 一〇六件 二五町四及四畝  
 五 耕作者又ハ家族望用又ハ挺身隊去勤ニ依リ耕作不能  
 一六件 三町三及七畝  
 六 工傷其他経済上有利ナル職業ニ転取離村セルモノ  
 一五件 四町三及五畝  
 七 耕作者又ハ家族死亡ニ依ルモノ  
 八件 一町四及八畝  
 計 一五六件 三六町九及一畝